

岡山県感染症週報 2013 年 第 19 週 (5 月 6 日～5 月 12 日)

◎岡山県では『インフルエンザ注意報』発令中です。

◆2013 年 第 19 週 (5/6～5/12) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 17 週	2 類感染症	結核	3 名 (20 代 男 1 名、40 代 男 1 名、80 代 男 1 名)
	4 類感染症	レプトスピラ症	1 名 (70 代 男)
	5 類感染症	アメーバ赤痢	1 名 (30 代 女)
		ウイルス性肝炎	1 名 (20 代 男)
第 18 週	2 類感染症	結核	1 名 (90 代 男)
第 19 週	3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1 名 (O157 : 20 代 女)
	5 類感染症	アメーバ赤痢	1 名 (40 代 女)
		風しん	5 名 (20 代 女 2 名・男 1 名、30 代 男 1 名、50 代 男 1 名)

■定点把握感染症発生状況

- インフルエンザは、136 名 (定点あたり 2.42 → 1.62 人) の報告があり、前週より減少しました。
- 感染性胃腸炎は、655 名 (定点あたり 11.78 → 12.13 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- 水痘は、備北地域 (定点あたり 4.00 人) で発生レベル 2 になりました。

【第 20 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 5 施設ありました。(5 月 13 日～15 日)
- 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157 : 幼児 女) の発生がありました。(5 月 14 日)

- 1. インフルエンザ**は、県全体で 136 名 (定点あたり 1.62 人) の報告があり、前週 (2.42 人) より減少しました。岡山県はひきつづき「インフルエンザ注意報」により注意喚起を図っています。手洗い・うがいなど感染予防に努めてください。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。全国の第 18 週 (4/29～5/5) の集計によると、定点あたり 2.36 人であり、前週 (3.07 人) より減少しました。都道府県別では、宮崎県 (6.56 人)、大分県 (5.86 人)、福岡県 (5.20 人) の順に多く、40 都道府県で前週の報告数より減少しました。
- 2. 感染性胃腸炎**は、655 名 (定点あたり 11.78 → 12.13 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。第 16 週以降、過去 10 年の同時期と比較して、最も患者数が多い状態で推移しています。県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
- 3. 風しん**は、5 名の発生がありました。岡山県では今年の第 1～19 週までの報告累計が 27 名となり、増加が続いています。全国では関東地方、近畿地方を中心に昨年を上回る大きな流行になっています。2013 年の 1～18 週までの累計報告数は 5,964 人となり、これまでにない規模で患者が急増しています。
- 4. 腸管出血性大腸菌感染症**は、1 名の報告があり、今年は第 19 週までに 9 名が報告されています。過去 5 年の同時期とほぼ同数の発生ですが、5 月頃から患者が増加する傾向がありますので、食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。
- 5. 水痘(水ぼうそう)**は、備北地域 (定点当たり 4.00 人) で増加しました。備北地域では第 17 週に定点あたり 4.25 人となり、定点あたり患者数が 4 人以上になったため発生レベル 2 になりました。その後、第 18 週には 1.00 人に減少し、レベル 1 になりましたが、今週再びレベル 2 になりました。患者との接触を避ける等、感染予防に努めてください。

【医療機関の方へのお知らせ】

感染症法施行規則の改正が行われました。(平成 25 年 4 月 26 日)

鳥インフルエンザ (H7N9) が感染症法上の指定感染症になりました。この改正により、鳥インフルエンザ (H5N1) と同様に入院措置や検疫対応が可能となり、国内で患者が発生した場合に、より万全の対応をとることができるようになりました。

(平成 25 年 5 月 6 日施行)

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎		★	流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】 前週からの推移:



: 2 倍以上の減少



: 1.1～2 倍未満の減少

 : 1.1 未満の増減

: 1.1～2 倍未満の増加

: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし

★: 僅か

★★: 少し

★★★: やや多い

★★★★: 多い

★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

インフルエンザ情報 2013 年 第 19 週 (5 月 6 日 ~ 5 月 12 日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

○インフルエンザは、136 名（定点あたり 2.42 → 1.62 人）の報告があり、前週より減少しました。

岡山県は「インフルエンザ注意報」発令中です。

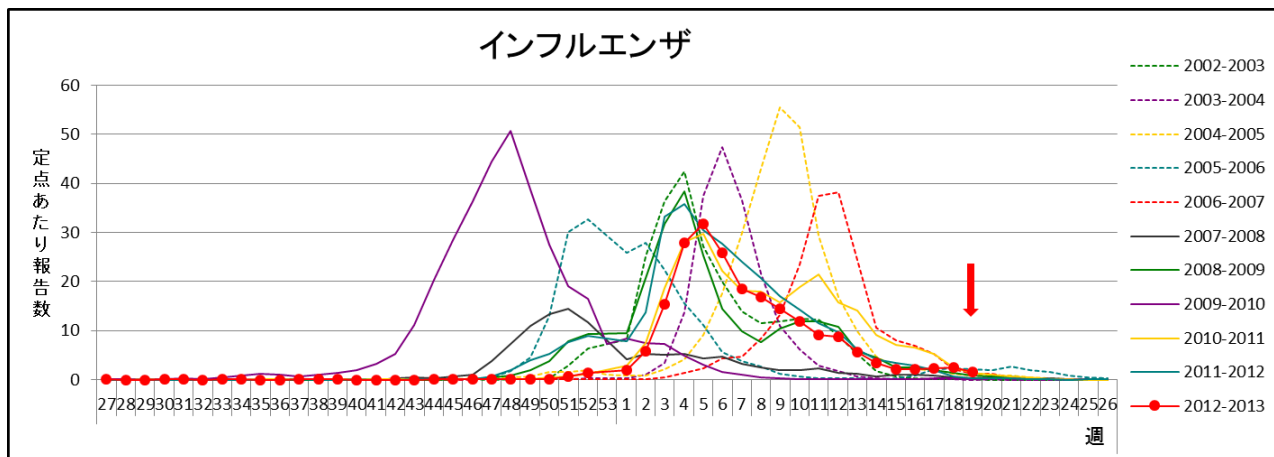
○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 1 施設でありました。

○インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第 20 週 速報】

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が、5 施設でありました。（5 月 13 日～15 日）

（岡山市 2、備中地域 1、美作地域 2）



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

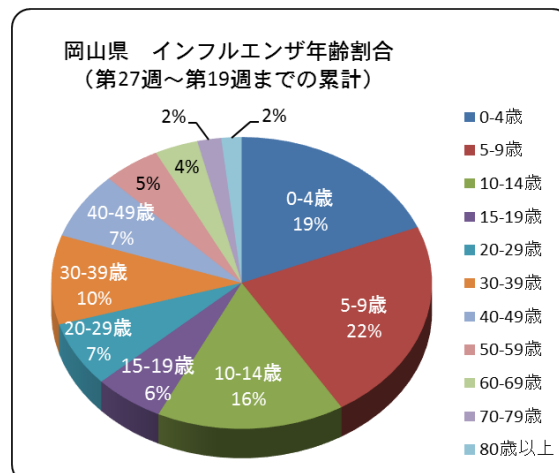
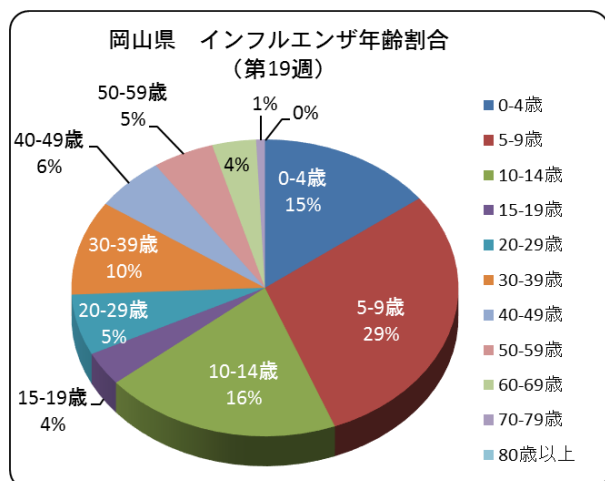
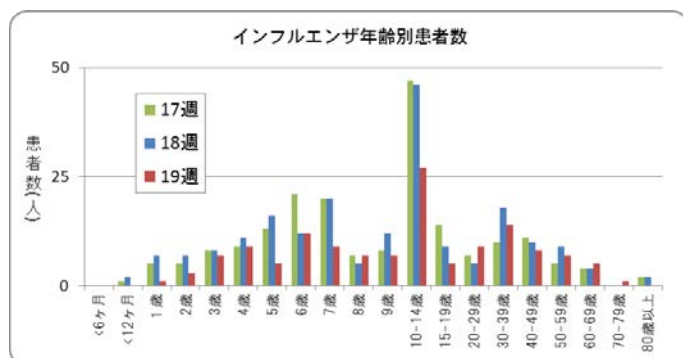
インフルエンザは、136 名（定点あたり 2.42 → 1.62 人）の報告があり（84 定点医療機関報告）、前週より減少しましたが、小学校で、インフルエンザとみられる学年閉鎖も発生しており、岡山県はひきつづき「インフルエンザ注意報」により注意喚起を図っています。手洗い・うがいなどの感染予防を心がけましょう。また、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

※注意報の解除基準：2 週連続して、定点あたり 1 人を下まわった場合。

1. 年齢別発生状況

インフルエンザ患者の年齢割合は、5-9 歳が 29%、10-14 歳が 16%、0-4 歳が 15% の順で、幼児、小学生、中学生に該当する年齢層が患者の 60% を占めています。

第 18 週に続き、学校の臨時休業も報告されており、第 20 週は 5 月 15 日までです。すでに 5 施設の臨時休業が報告されていますので、ひきつづき集団生活の中での感染に注意してください。

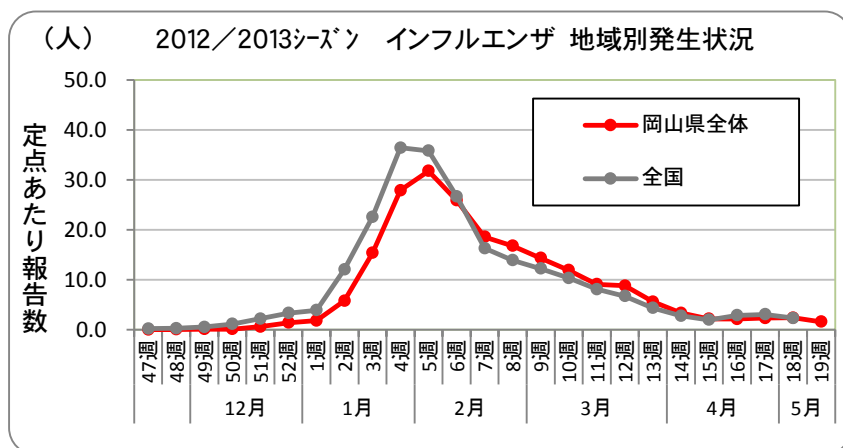


2. 地域別発生状況

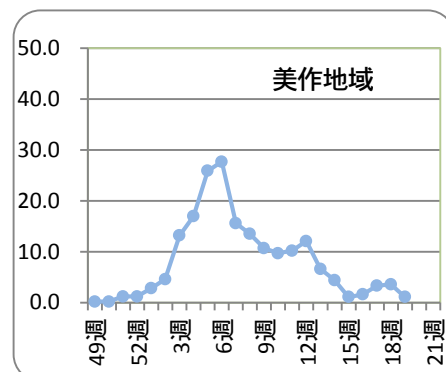
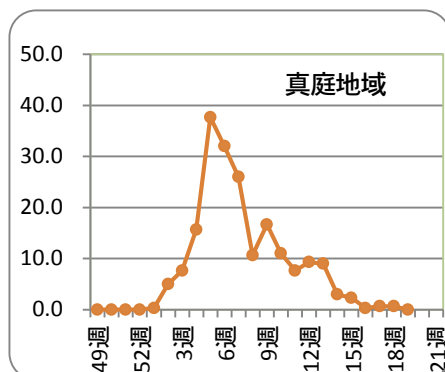
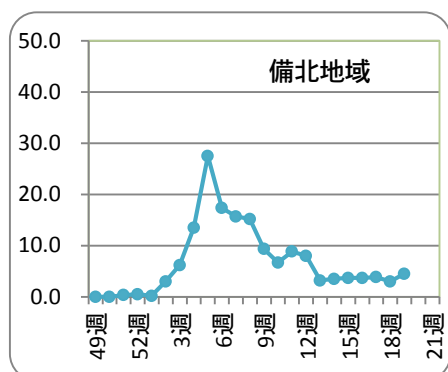
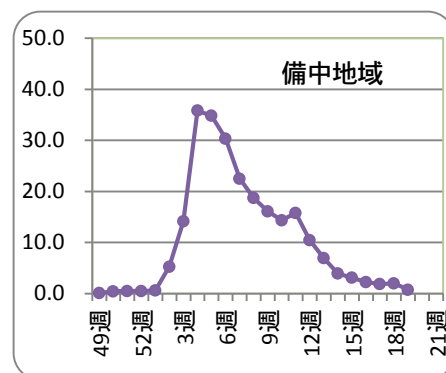
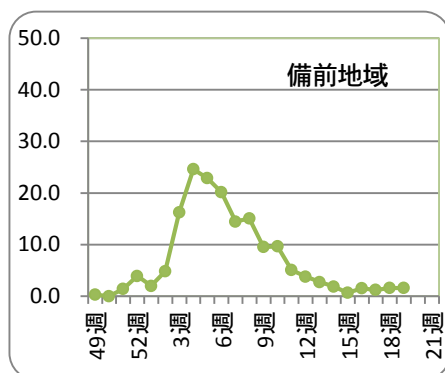
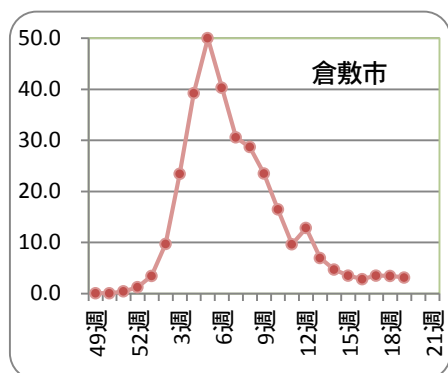
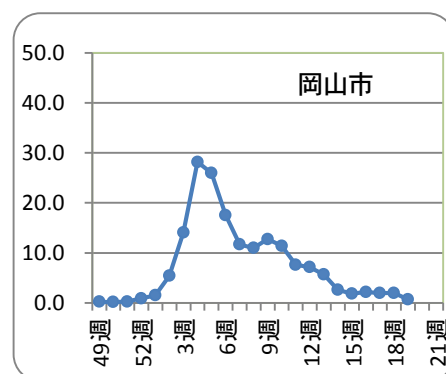
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	136	↓	備 中	患者数	9	↓
	定点あたり	1.62			定点あたり	0.75	
岡山市	患者数	15	↓	備 北	患者数	27	↗
	定点あたり	0.68			定点あたり	4.50	
倉敷市	患者数	50	↗	真 庭	患者数	0	↓
	定点あたり	3.13			定点あたり	0.00	
備 前	患者数	24	↗	美 作	患者数	11	↓
	定点あたり	1.60			定点あたり	1.10	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑



全国集計第18週(4/29～5/5)の定点あたり患者数は2.36人となり、前週(3.07人)よりも減少しました。都道府県別では宮崎県(6.56人)、大分県(5.86人)、福岡県(5.20人)の順に多く、40都道府県で前週の報告数より減少しました。

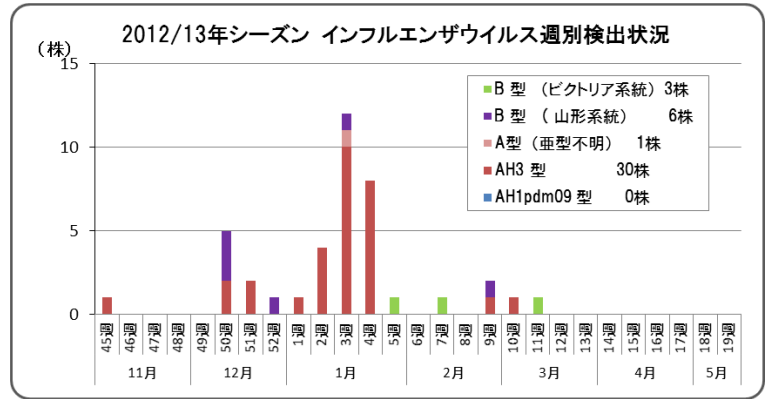


3. インフルエンザウイルス検出状況

第19週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。
今シーズンで、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が30株、A型（亜型不明）が1株、B型（山形系統）が6株、B型（ビクトリア系統）が3株です。

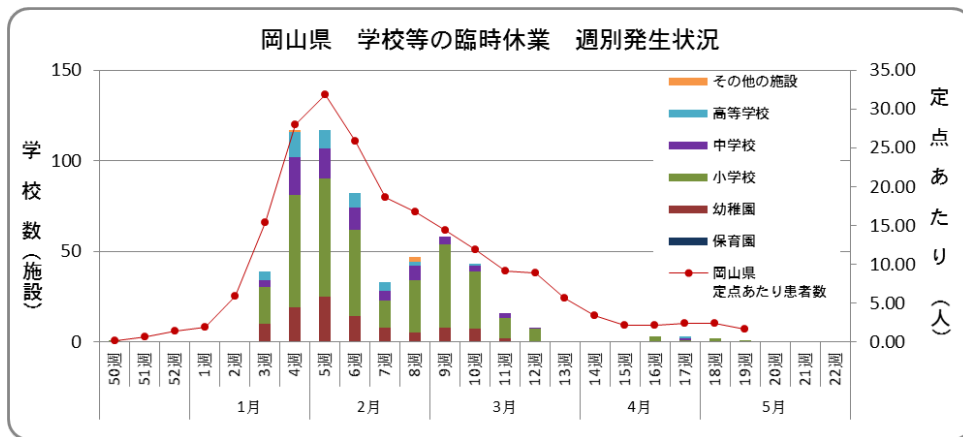
全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が最も多く81%、B型が17%、AH1pdm09型が2%の順になっています。昨シーズン同様AH3型が主流になっていますが、B型の検出割合が徐々に増加しています。

[（インフルエンザウイルス分離・検出速報 国立感染症研究所 感染症疫学センター）](#)



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました。



◆第19週 臨時休業施設数

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳 第19週

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	14	7873	14	5823	1	571	0	22	1	183	0	366	H 24. 11. 6
岡山市	0	2922	0	2117	0	186	0	2	0	30	0	154	H24. 11. 6
倉敷市	0	1791	0	1288	0	109	0	1	0	15	0	93	H25. 1. 15
備前地域	14	904	14	693	1	83	0	4	1	37	0	42	H25. 1. 15
備中地域	0	1109	0	895	0	92	0	6	0	42	0	44	H24. 12. 12
備北地域	0	310	0	238	0	32	0	3	0	23	0	6	H25. 1. 21
真庭地域	0	128	0	90	0	12	0	1	0	9	0	2	H25. 1. 21
美作地域	0	709	0	502	0	57	0	5	0	27	0	25	H25. 1. 15

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳

第19週：1施設

累計：571施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	98	1	343	0	79	0	47	0	4

◆ インフルエンザによる出席停止期間が改正されました。

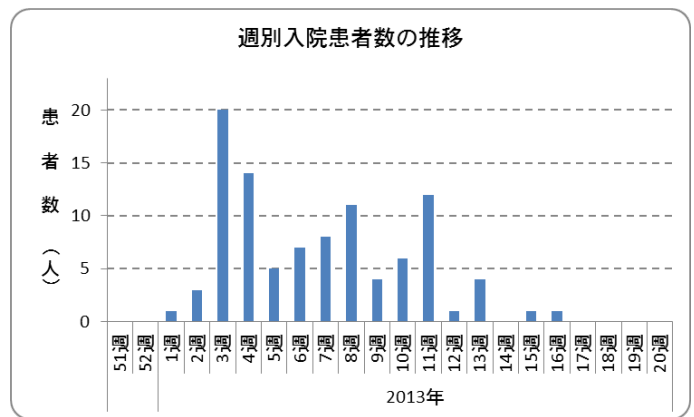
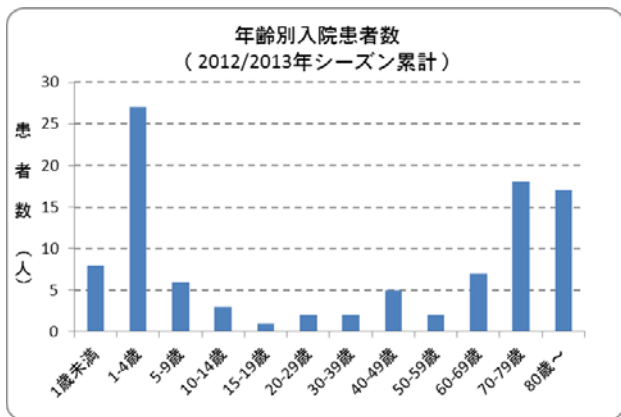
平成 24 年 4 月 1 日より、学校保健安全法施行規則が一部改正され、インフルエンザの出席停止期間が「解熱した後 2 日を経過するまで」から「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日（幼児にあっては、3 日）を経過するまで」に改正されました。水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

※ [学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令の施行について\(通知\)](#)

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



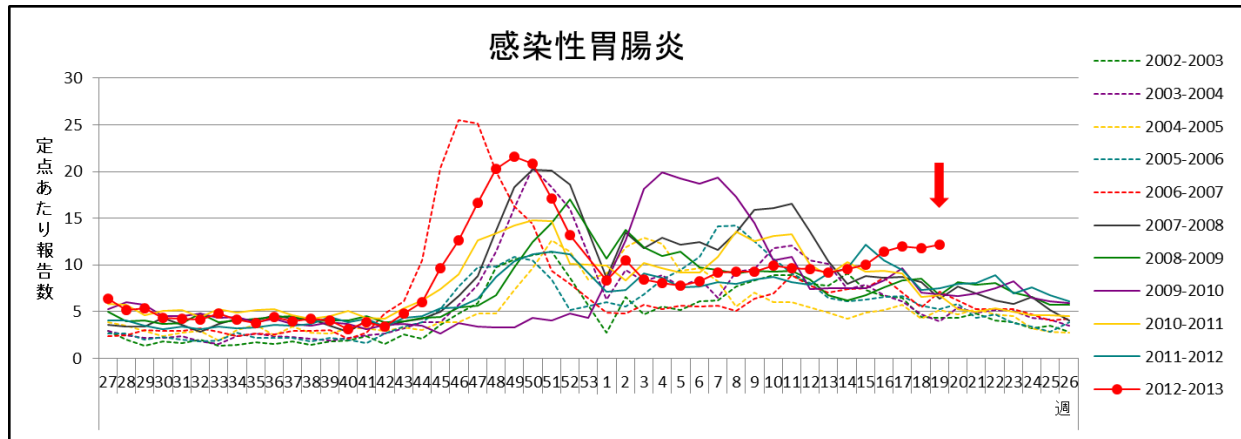
【平成 24 年 9 月 3 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	8	27	6	3	1	2	2	5	2	7	18	17	98
ICU 入室										1			1
人工呼吸器の利用							1			1			2
頭部 CT 検査(予定含)		3	3	1	1	1	1				2		12
頭部 MRI 検査(予定含)		8	2		1		1						12
脳波検査(予定含)		1					1						2
いずれにも該当せず	8	18	2	2		1	1	5	2	6	16	17	78

* 重複あり

感染性胃腸炎情報 2013 年 第 19 週 (5 月 6 日 ~ 5 月 12 日)

○岡山県内の患者報告数は 655 名（定点あたり 11.78 →12.13 人）であり、前週とほぼ同数でした。



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

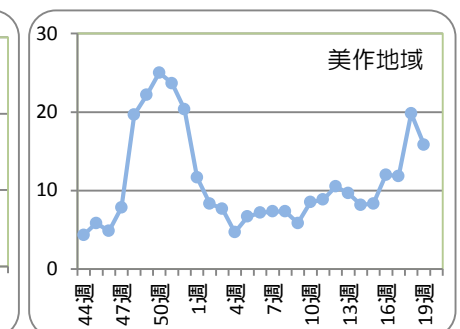
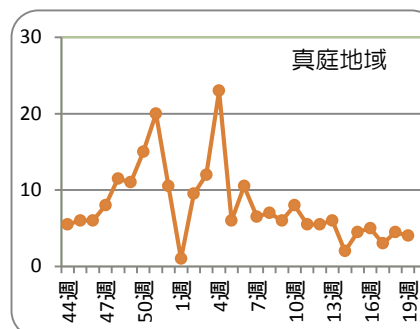
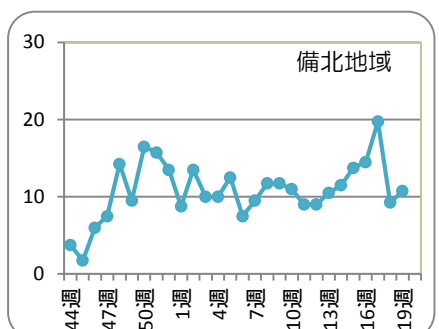
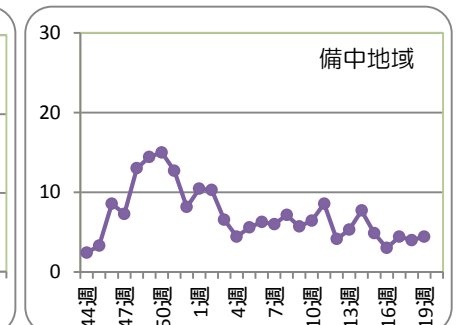
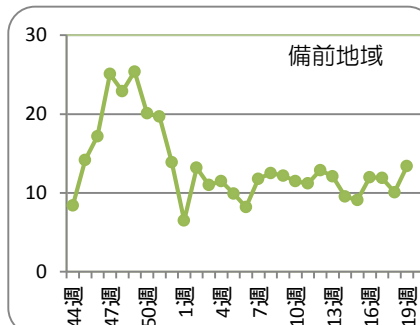
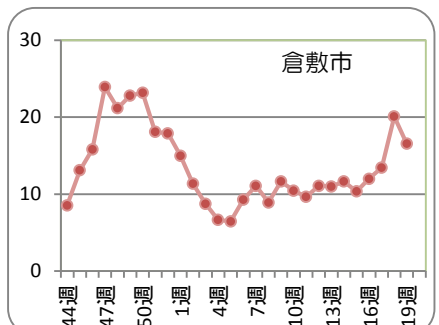
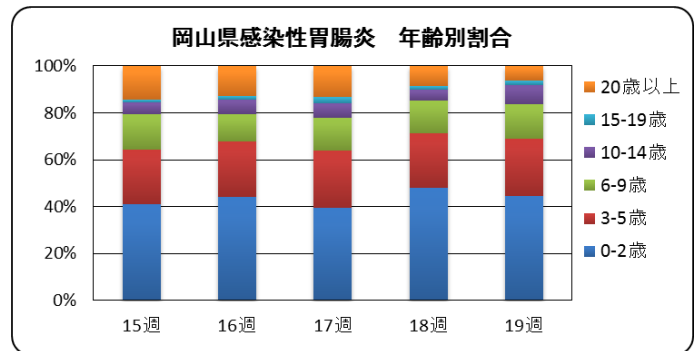
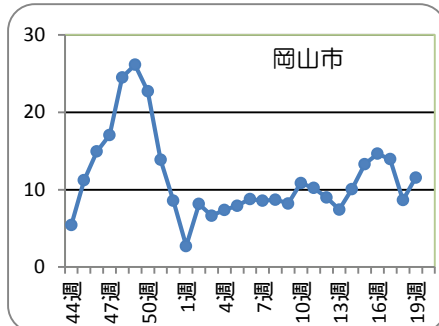
感染性胃腸炎は、655 名（定点あたり 11.78 →12.13 人）の報告があり(54 定点医療機関報告)、前週とほぼ同数でした。第 16 週以降、過去 10 年の同時期と比較して、最も患者数が多い状態で推移しています。地域別では、倉敷市（16.55 人）、美作地域（15.83 人）、備前地域（13.40 人）の順で定点あたり患者数が多くなっており、倉敷市では、前週から発生レベル 3 が続いています。

年齢別では、0～2 歳が全体の 44% を占め、引き続きこの年齢層の割合が、多くを占めています。

全国集計速報値によると、岡山県の第 18 週の定点あたり患者数（11.78 人）は、大分県（16.97 人）に次いで、全国で 2 番目に多くなっています。トイレの後や食事、調理の前には、特にしっかりと石けんと流水で手洗いを行う等、感染予防に努めてください。

例年 3～5 月にかけては、ロタウイルスによる胃腸炎が、0～2 歳の乳幼児を中心に増加するとされています。ノロウイルスに比べ重症度が高いといわれていますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◆地域別・年齢別発生状況(定点あたり数)



保健所別報告患者数 2013年 19週 (2013/05/06～2013/05/12)

2013年5月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	136	1.62	15	0.68	50	3.13	24	1.60	9	0.75	27	4.50	—	—	11	1.10
RSウイルス感染症	4	0.07	2	0.14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.33
咽頭結膜熱	13	0.24	10	0.71	—	—	—	—	2	0.29	—	—	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	0.65	19	1.36	9	0.82	—	—	1	0.14	2	0.50	—	—	4	0.67
感染性胃腸炎	655	12.13	162	11.57	182	16.55	134	13.40	31	4.43	43	10.75	8	4.00	95	15.83
水痘	96	1.78	23	1.64	16	1.45	30	3.00	—	—	16	4.00	—	—	11	1.83
手足口病	2	0.04	—	—	—	—	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	3	0.06	—	—	1	0.09	1	0.10	—	—	1	0.25	—	—	—	—
突発性発疹	30	0.56	16	1.14	7	0.64	2	0.20	1	0.14	2	0.50	—	—	2	0.33
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	12	0.22	12	0.86	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	9	0.17	1	0.07	1	0.09	2	0.20	—	—	1	0.25	2	1.00	2	0.33
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	3	0.60	—	—	—	—	—	—	—	—	3	3.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	136	1.62	15	0.68	50	3.13	24	1.60	9	0.75	27	4.50	—	—	11	1.10
咽頭結膜熱	13	0.24	10	0.71	—	—	—	—	2	0.29	—	—	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	0.65	19	1.36	9	0.82	—	—	1	0.14	2	0.50	—	—	4	0.67
感染性胃腸炎	655	12.13	162	11.57	182	16.55	134	13.40	31	4.43	43	10.75	8	4.00	95	15.83
水痘	96	1.78	23	1.64	16	1.45	30	3.00	—	—	16	4.00	—	—	11	1.83
手足口病	2	0.04	—	—	—	—	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	3	0.06	—	—	1	0.09	1	0.10	—	—	1	0.25	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	12	0.22	12	0.86	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	9	0.17	1	0.07	1	0.09	2	0.20	—	—	1	0.25	2	1.00	2	0.33
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第19週 2013/05/06～2013/05/12)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	136	-	-	1	3	7	9	5	12	9	7	7	27	5	9	14	8	7	5	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	4	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	13	-	1	5	2	1	1	-	3	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	-	-	2	2	2	5	7	3	6	2	1	4	-	1
感染性胃腸炎	655	12	57	138	84	57	54	50	28	24	24	21	51	15	40
水痘	96	-	3	20	17	16	11	8	8	4	4	2	3	-	-
手足口病	2	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	30	1	11	17	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	12	-	2	2	6	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
流行性耳下腺炎	9	-	-	-	-	2	1	1	1	1	1	-	1	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	3	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

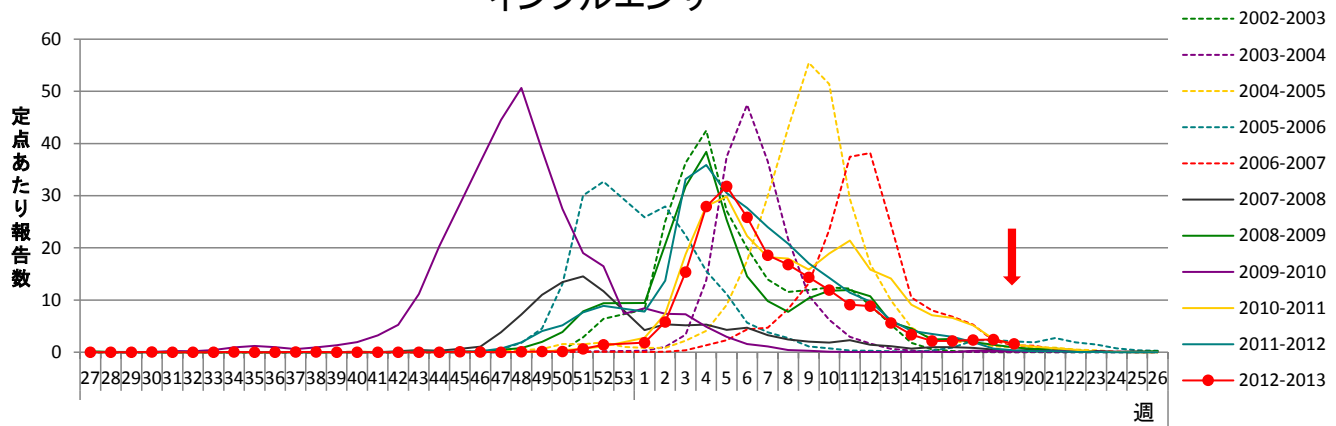
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

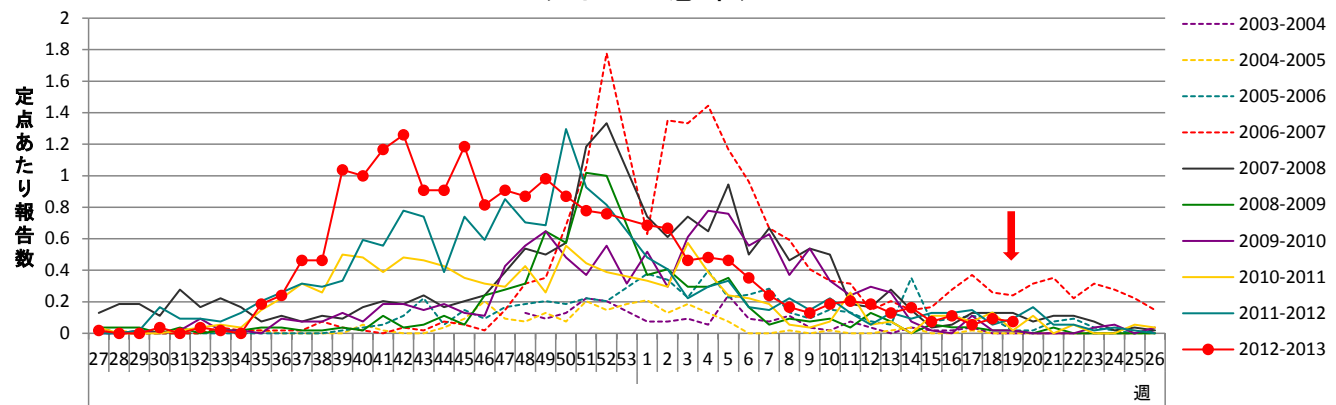
2013 年 19 週

分類	疾病名	2013			2012	2013	2012	2013	2012	2013	2012
		今週	累計	昨年		今週	累計	今週	累計	今週	累計
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱 ペスト	-	-	-	痘そう マールブルグ病	-	-
	南米出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	101	478	ジフテリア	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-		-	-	-		-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢 パラチフス	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	9
	腸チフス	-	-	1		-	-	-		-	169
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱 黄熱 回帰熱 狂犬病 重症熱性血小板減少症候群 ダニ媒介脳炎 つつが虫病 鳥インフルエンザ 日本紅斑熱 鼻疽 ヘンドラウイルス感染症 マラリア リッサウイルス感染症 レジオネラ症	-	-	-	A型肝炎 オウム病 キャサヌル森林病 コクシジオイデス症 腎症候性出血熱 炭疽 デング熱 ニパウイルス感染症 ハンタウイルス肺症候群 ブルセラ症 発しんチフス 野兎病 リフトバレー熱 レプトスピラ症	-	4
	エキノコックス症	-	-	-		-	-	-		-	2
	オムスク出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	Q熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	サル痘	-	-	-		-	-	-		-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	チクングニア熱	-	-	-		-	-	2		-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	日本脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	Bウイルス病	-	-	-		-	-	-		-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	ポツリヌス症	-	-	-		-	-	-		-	-
	ライム病	-	-	-		-	-	-		-	-
	類鼻疽	-	-	-		-	7	29		-	1
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-
五類	アメーバ赤痢	1	4	11	ウイルス性肝炎*3 クロイツフェルト・ヤコブ病 ジアルジア症 侵襲性肺炎球菌感染症 破傷風 風しん	-	3	7	急性脳炎*4 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 先天性風しん症候群 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染 麻しん	-	2
	クリプトスポリジウム症	-	-	-		-	2	1		-	1
	後天性免疫不全症候群	-	5	15		-	-	3		-	-
	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-		-	5	-		-	-
	梅毒	-	3	7		-	1	1		-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	2		5	27	6		-	6

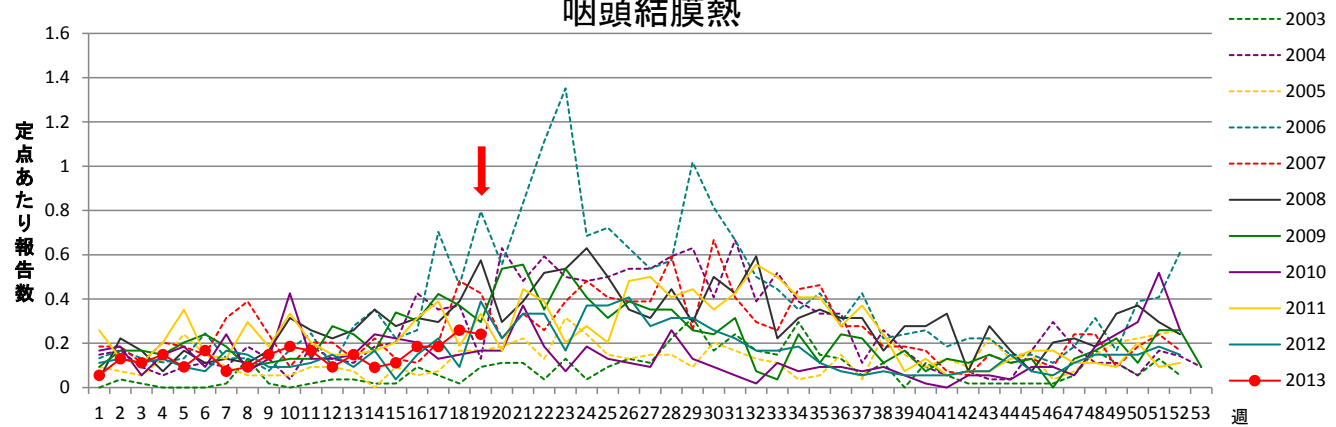
インフルエンザ



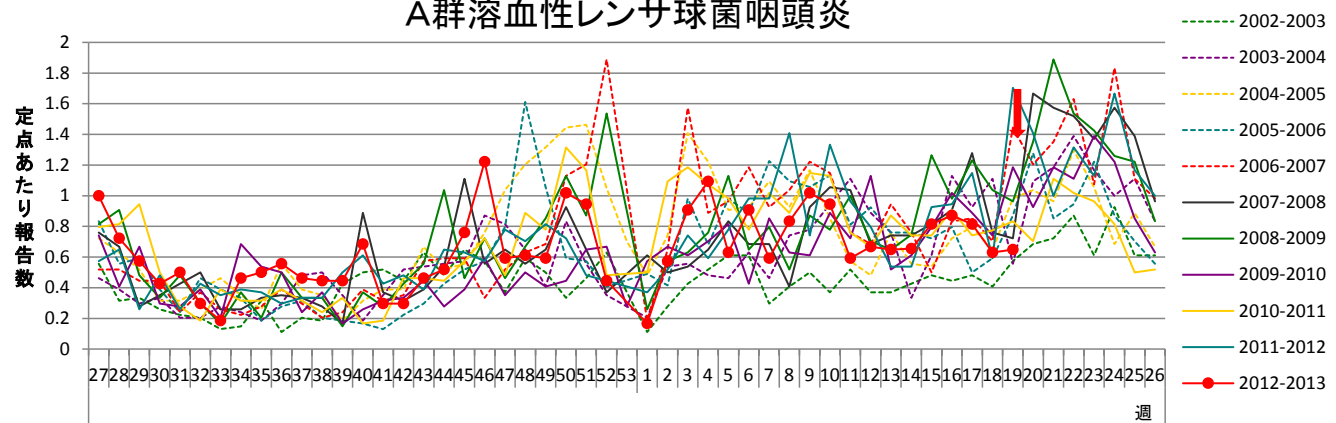
RSウイルス感染症



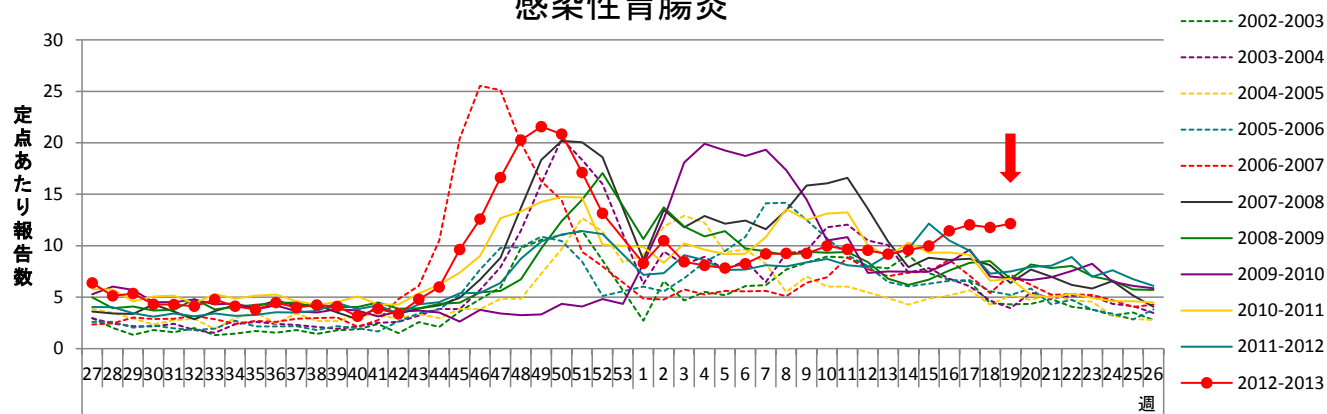
咽頭結膜熱



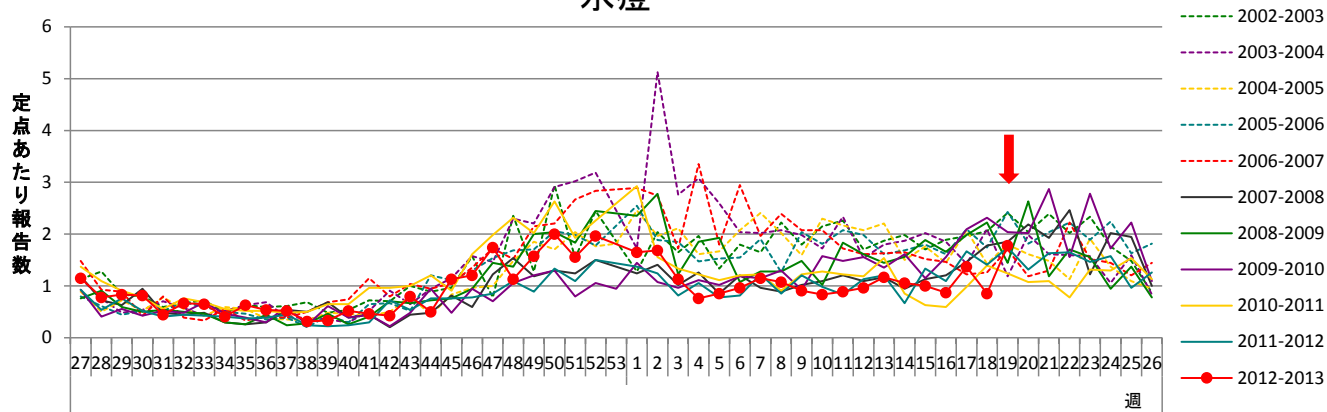
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



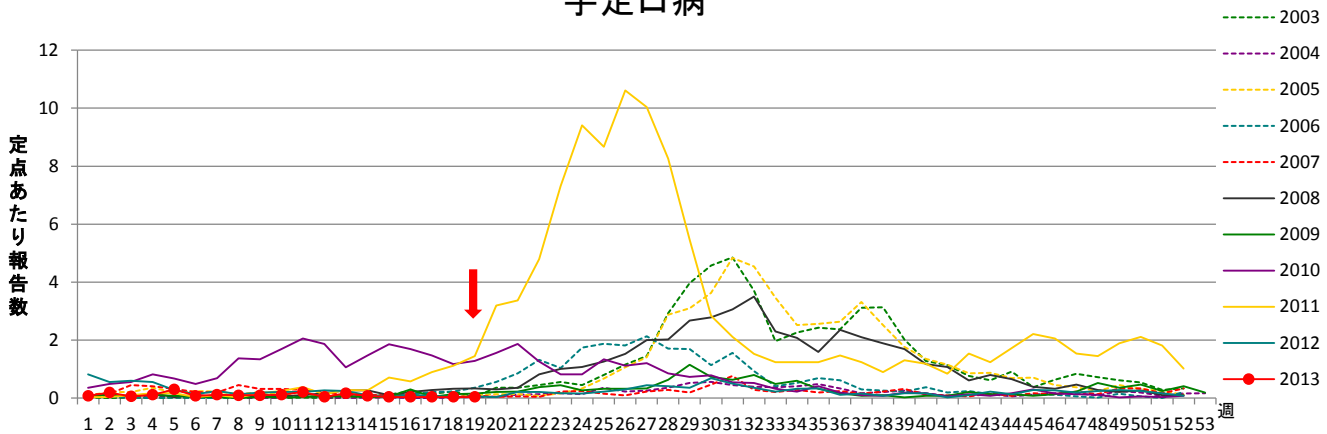
感染性胃腸炎



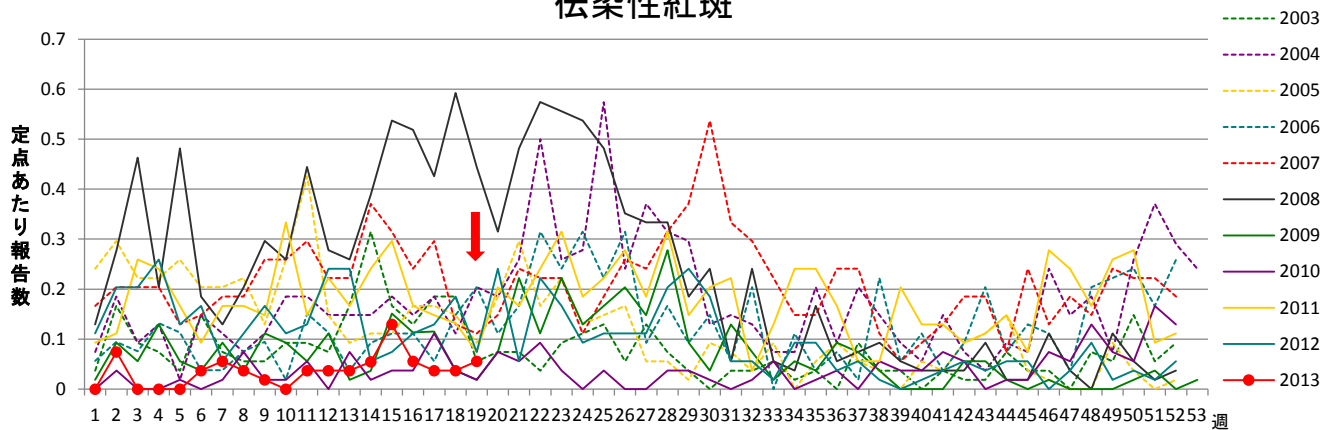
水痘



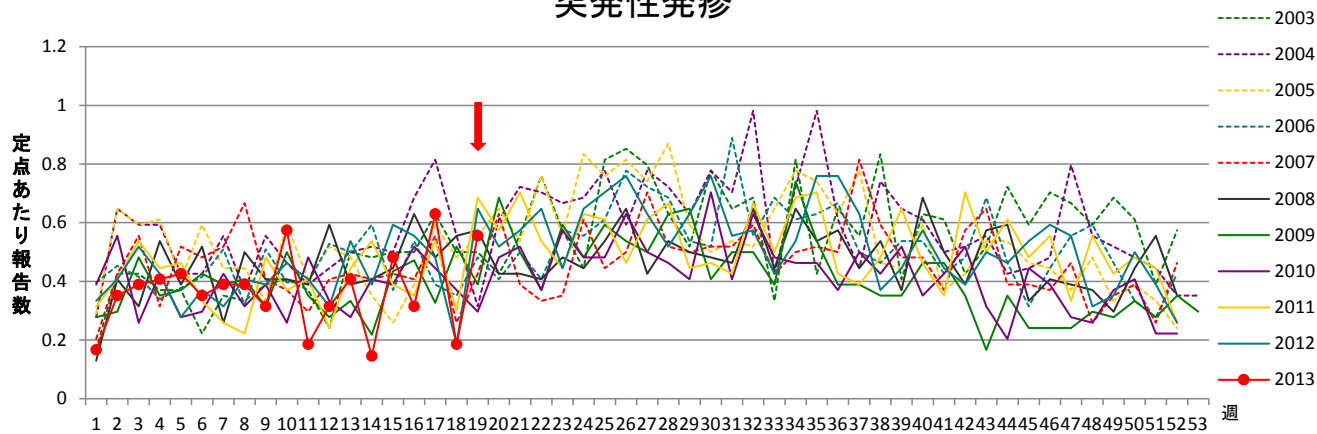
手足口病



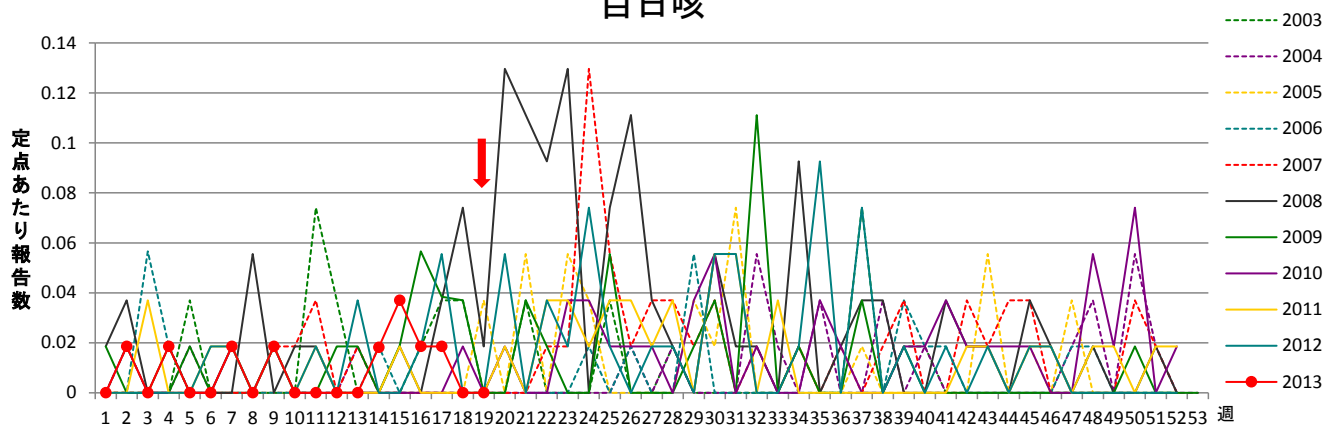
伝染性紅斑



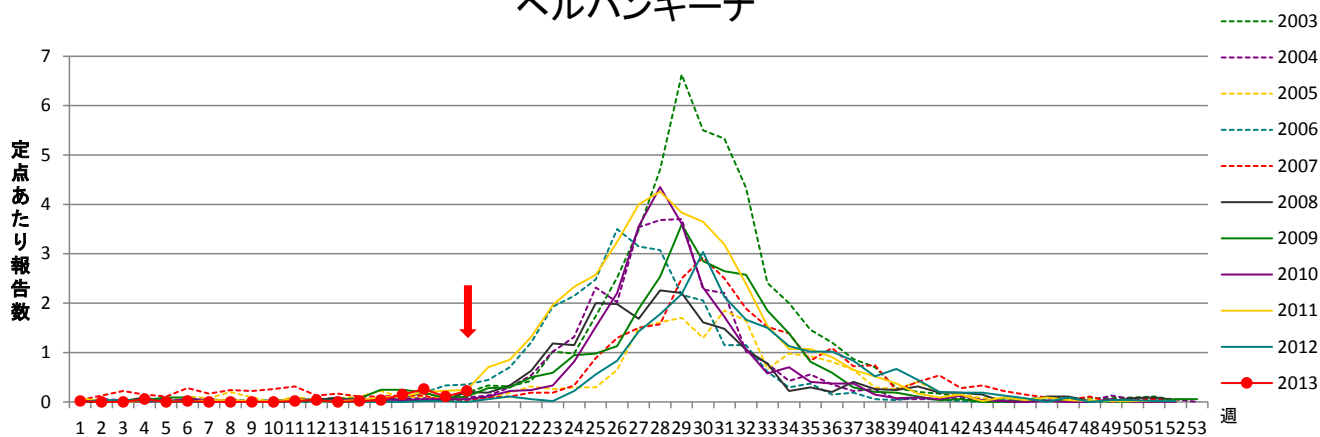
突発性発疹



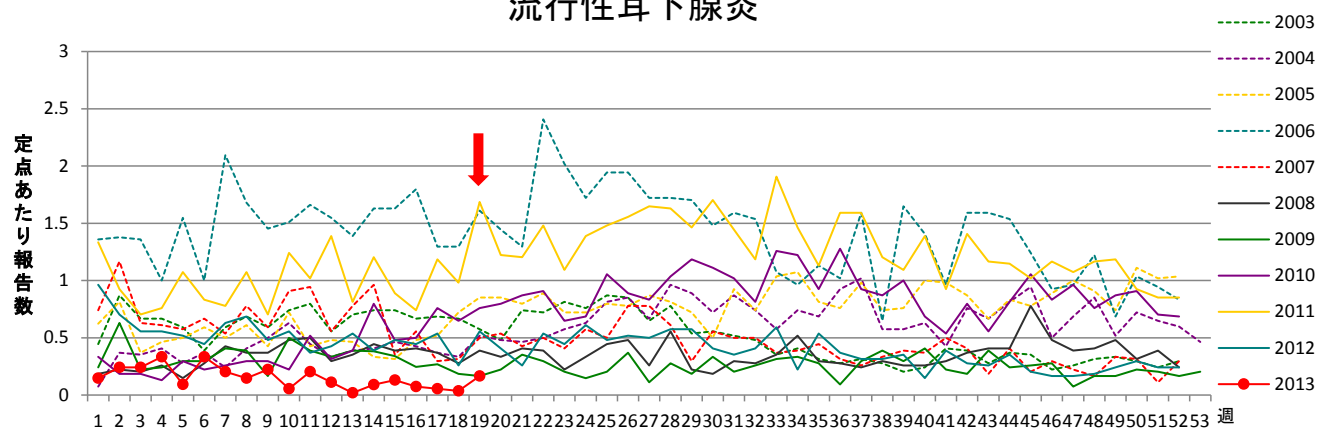
百日咳



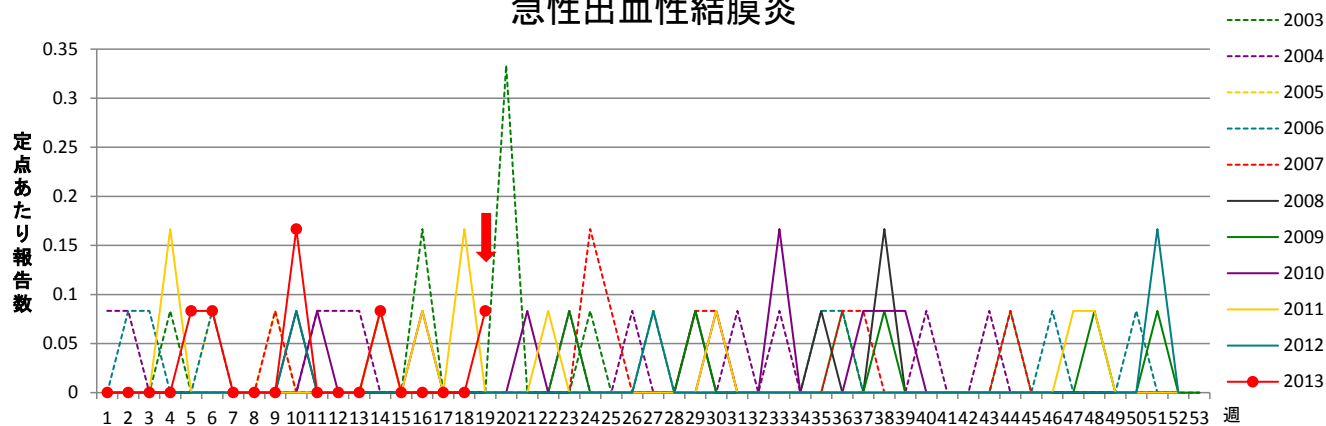
ヘルパンギーナ



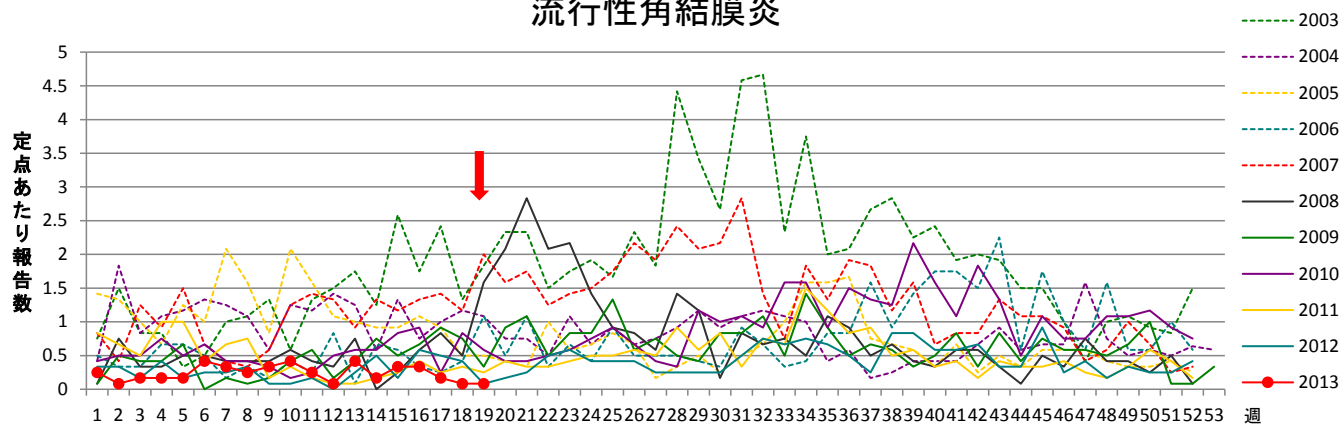
流行性耳下腺炎



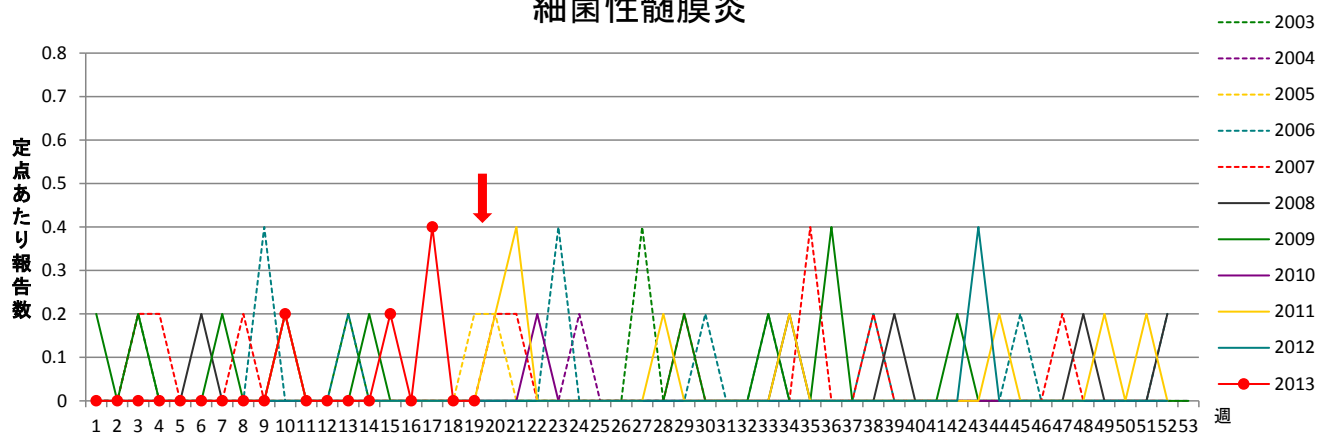
急性出血性結膜炎



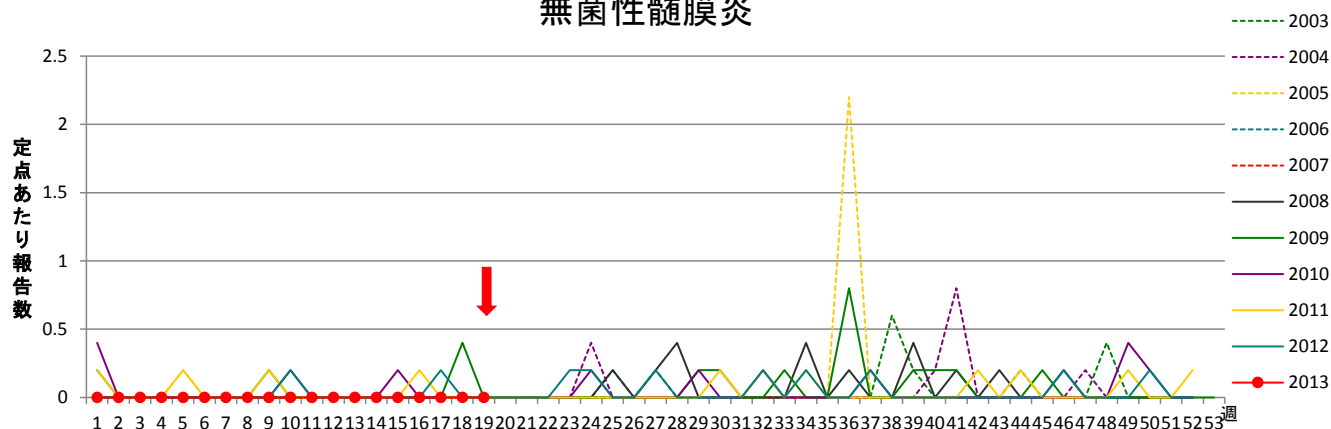
流行性角結膜炎



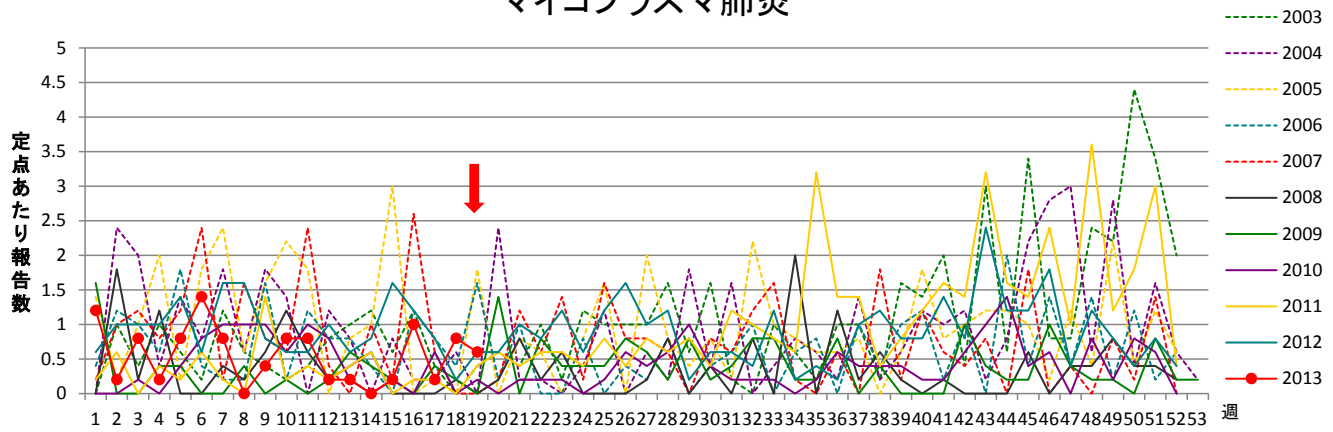
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

